



愛媛県立野村高等学校

〒797-1211

愛媛県西予市野村町阿下6番地2号

TEL 0894-72-0550

FAX 0894-72-0367

昭和21年 東宇和郡東部10カ町村組合立野村農業学校設立認可

昭和23年 愛媛県立農業高等学校に改称 昭和24年 愛媛県立野村高等学校発足

豊かな自然、地域社会にはぐくまれながら、学科の特質と生徒の実態に即応した特色ある教育を実践する。人格の完成を目指し、調和の取れた人間性、高い知性、豊かな創造性の育成を図り、地域、社会の進展に貢献できる、主体性に富んだ広い視野を持った人間を育成することを教育方針とし、美しく 新しく 逞しく、心・知・体を錬磨する。

学級数：9 生徒数：292 普通科・畜産科

小動物を連れて地域行事に参加

農業クラブでは花壇の除草や掃除、花の定植などの管理を行い、地域の環境美化に努めている。また、ポニーやうさぎなどの小動物を連れて地域の行事に出向き、ふれあい体験やポニーの乗馬体験や花・野菜の苗の販売、地域住民を対象にカルチャー教室を開催して、野菜や米栽培の農業体験を実施し食育を行っている。活動を通して、学校の実習で学んだことが身につけていること、役に立つことを実感している。

VYS部では、社会福祉協議会からの依頼で独居老人に手紙を書いて返事をいただく、ふれあい交流を行ったり、朝霧湖マラソンスタッフ、児童館の祭り、こども劇場、クリスマス会に参加して綿菓子を作ったり、ゲーム、読み聞かせをして参加、ボランティアグループと一緒に障害児のイベントのお手伝い等をしている。



日ごろ接することのない高齢者の方や子どもたちと接して、お互いの温かい言葉であったり、感謝の気持ちを伝えたりする中で、成長が見られ豊かな心が育まれていると実感する。次は何を手伝ったらよいかと自ら考えて行動しようとする姿勢が身についた。

ボランティアに参加することで、相手のことを考えて行動しようとする思いやりが育まれ行動力が身についた。生徒も参加活動することを楽しみにしており、貴重な体験となっている。

本校は、運動部、文化部ともに活発である。ボランティアに参加できる、時間にゆとりのある生徒を確保することが今後の課題である。



愛媛県立宇和島東高等学校

〒798-0066

愛媛県宇和島市文京町 1 番 1 号

TEL 0895-22-0261

FAX 0895-24-0495

明治 29 年 愛媛県尋常中学校南予分校として設立

明治 32 年 愛媛県宇和島中学校となる

昭和 24 年 愛媛県立宇和島東高等学校が設立される

人格の完成を目指して、敬愛・自律・進取の精神を培い、21 世紀をたくましく生きぬく心身ともに健康な生徒の育成に努めることを教育目標とする。

学級数：23 生徒数：868 普通科・商業科

ボランティア部員 3 名で積極的に

現在、ボランティア部員は 2 年生 3 名。積極的に活動している。毎週金曜日、講師の先生と手話学習を行っている。市の社会福祉協議会主催のクリスマス会では、障害のある方々やその家族との交流やイベントのお手伝い等をする。

さらに、公民館夕涼み会の屋台運営、南予いやし博では、伊達博前のブースで甲冑をきておもてなしをした。人数が足りない場合は、全校に募集をかけて有志を募る。

また、年 2 回、宇和高校で栽培した花を駅の入り口の花壇に植える駅前花植えボランティアに参加している。

JRC に加盟しており、夏休みには、愛媛県下の小・中・高生とともに 2 泊 3 日の合宿にも参加した。

2013 年には、国際ソロプチミスト主催の西日本女生徒による発表会でプレゼンをした。



生徒はいろいろな活動を通して、明るく積極的になった。自分で何でもやってみようという気持ちが見られるようになり、よく気も付くようになった。地域の方々からはよく動く、元気をもらったと言ってもらえる。文化祭では手話コーラスを披露した。

学期の終わりには、生徒会が生徒の有志を募ってトイレ掃除をする。学校中のトイレがきれいになるので、新学期が楽しみである。

高校時代には、いろんな場に出かけていき、感じて考えながら活動する必要があると思う。主体的な活動を通して、自らの成長へつなげていってもらいたい。部活や補習で忙しく、土、日のボランティア活動には参加できない生徒も多いが、今後とも校外のボランティア依頼をできるだけ多くの生徒に伝え興味をもってもらうようにしたい。



愛媛県立宇和島水産高等学校

〒798-0066

愛媛県宇和島市明倫町 1 丁目 2 番 20 号

TEL 0895-22-6575

FAX 0895-25-0791



昭和 20 年 愛媛県立水産学校（漁業科）として宇和島市に設置

昭和 23 年 学制改革により、愛媛県立水産高等学校に変更

人格の完成を目指し、平和的な国家及び社会の形成者としての普遍的な資質を養うとともに、我が国の水産業界を進歩発展させるために必要な専門的な知識と技術を習得させ、水産人として国家社会に貢献する有為な技術者を育成することを教育方針とする。

学級数：9 生徒数：208 海洋技術科・水産増殖科・水産食品科

小さな子どもたちに海や魚を好きになってもらいたい

本校は、水産高校ならではの特色を生かした活動をしている。

水産増殖科では、小さな子どもたちに海や魚を好きになってもらいたいと、地域のイベント等で、学校で育てた金魚で金魚すくい、魚拓教室、食育活動等を行っている。地域からオファーがあり、生徒にとっても教えることや伝えることの難しさを学ぶ良い機会となるので極力参加できるようにしている。

水産食品科は、「マハタぶるるん丼」を開発して、八幡浜みなっとのオープニングイベントや「ご当地絶品うまいもん甲子園」に出店した。また、ブリ大根缶詰を作り宇和島の名産にしようがんばっている。さらに、日本橋の三越から依頼がありまぐろ解体ショーを行った。このショーは好評で多方面から依頼に応じて活躍している。



家庭クラブの活動は、病院での水槽展示介在活動、慰霊牌や宇和島高架下の清掃等がある。地域の方との交流の場となっており、生徒のコミュニケーション能力の育成や命に対する責任感の認識にもつながっている。

ボランティア部は福祉施設のイベントのお手伝いや訪問をすることで感謝され、地域や周囲の人のため、そして自分のために活動することができている。

そして、水産クラブは、「海の日」になにかできないだろうかと、海の大掃除を漁業関係者の協力の下行っている。毎年 100 名近い生徒が参加する。

また、水産高校生が講師となり小学生に海や魚に興味・関心を持ってもらおうと、夏休み中に小学生水産教室を行っている。

えひめ丸事故から 10 年以上経過した。宇和島でも徐々に記憶が薄れつつある。宇和島青年会議所からの依頼を受けて、この事故を風化させないようにするため、地域の小学校へ生徒が訪問し、出前授業をしている。事故のことを他人に説明する機会はなかったが、この活動を通して、事故の悲惨さ、命の大切さ、仲間の大切さ、全国からの支援にたいする感謝の気持ちを再認識する機会となった。

社会にでる前の高校生にとって、目標を見つけて意欲をもち、労を惜しまず体を動かして実践し、誰に対しても思いやりの心をもって接することはとても大切なことである。全校生徒が多く参加できる活動、一人一人が主体となった活動を模索していきたいと思う。



愛媛県立吉田高等学校

〒799-3794

愛媛県宇和島市吉田町北小路甲 10 番地

TEL 0895-52-0565

FAX 0895-52-4616

大正 6 年 山下実科女学校創立

昭和 23 年 学制改革により私立山下高等学校と改称

昭和 25 年 愛媛県立吉田高等学校に併合される

校訓「自律」「忠誠」「愛物」「邁往」の内容は、人間形成の基本的要素を示しており、本校の指導目標である。また、明るく元気に、心豊かで力強く未来を拓く生徒を育成することを重点努力目標とする。

学級数：13 生徒数：472 普通科・工業科（機械建築工学科・機械科・電気電子科・建築科）

「ピュアマインド」と「出前ボランティア」

6 月、11 月、3 月にピュアマインドという通学路の掃除を生徒・教員合わせて 120～180 名ほどで行っている。通学路のほか、津波の避難場所や公園の清掃を実施後、家庭クラブ役員がゼリーやスープなどの手作りの差し入れをする。

また、各部活動が学習を生かした出前ボランティアを実施している。ブラスバンドおよび声楽部が、高齢者施設のクリスマス会で演奏して、その折、家庭クラブで作成した干支のカードを配っている。茶道部は高齢者施設や地域の公民館のサロンへ手作りの菓子を持参してお点前を披露する、ボランティア茶会を実施している。

機械技術部の専門性を生かした活動として、ミニ列車運行を実施している。宇和特別支援学校や吉田園児祭等で、レールや列車本体を持って出向き、レールを敷いて列車に子どもを乗せる、大変な作業ではあるが、幼児の喜ぶ顔を見たり保護者に声をかけていただいて、やってよかったと思うという。

家庭クラブでは、高齢者施設の訪問を年間 5 回実施している。ゲーム・クイズで楽しんだり、お茶会をしたり一緒に大掃除をしたり、いろいろ企画しているが、毎回、高齢者の肩をたたきながら替え歌で「地震の後には津波が来るから、逃げてください」と意識付けをしている。吉田はリアス式海岸にある。

早く避難すれば助かる可能性が大きくなる。

こうした生徒の活動は、ボランティアカードに記録する。生徒自身がコメントを書き、「喜んでもらってよかった」利用者が「お元気そうでよかった」といった言葉がたくさん聞かれる。

活動資金は保護者からの奉仕金を元にしたボランティア基金という別会計で運用している。

各部活動の特色を生かして地域活動を行っていると思う。生徒にとっては、地域との交流を実感できるし、自己有用感を持つことができる。学校行事の日程と調整しながら、校外も出向き、自分を生かすボランティア活動を続けていきたいと考えている。



ミニ列車運行



干支カード